

## 第 458 回集談会

1. 日時：2014 年 12 月 15 日（月）16:30～
2. 場所：2A 講義棟（中央棟 2 階）
3. 座長：臨床薬剤学教室 准教授 岸川幸生先生（内線 4410）
4. 演者：薬剤学教室 准教授 我妻恭行先生（内線 3406）
5. 演題：危険薬の安全管理に関する実証的研究について
6. 要旨：演者は、H13 年度より上原・飯塚が主催した「医療の TQM 実証プロジェクト（以下 NDP）」に参画し、その中で危険薬の安全管理に関する実証的研究に取り組んできた。今回は、この研究を介して得られた知見と、それを基に展開した医薬品の安全管理に関する全国啓発活動について紹介する。

本研究では、まず「危険薬」という用語の必要性を示し、これを定義した。次に NDP 参加施設を対象に、危険薬の指示の記載方法に関する実態調査と、医薬品を安全に使用するために必要な知識調査を行った（8 施設、延 1,285 人）。これらの基礎調査の結果、指示の記載方法は極めてバラツキがあること、看護師は計算をかなり苦手としていること等が分かった。一方、薬剤師は全般に薬の知識レベルが（医師よりも）高く、特に計算を得意としていることが示された。逆に塩化カリウムの危険性はあまり認識していないことも判明した。

これらの結果を基に、危険薬を安全に使用するための 16 項目からなる指針（NDP 危険薬の誤投与防止 Best Practice 16: 以下、BP）を策定した。BP には当時実現は難しいと考えられていた高濃度塩化カリウム注の病棟保管禁止、インスリンスライディングスケールの標準化等が含まれていたが、NDP 参加施設は、各々、可能なものから順次 BP を導入し、全国に先駆けてこれらを実証した。